

2

鳥羽伊良湖航路の存続に向け 関係者一丸で取り組みを

Sea Route



▲航路の重要性を訴える鈴木田原市長（会長）

左から佐原光一豊橋市長、鈴木市長、山脇実豊川市長、穂積亮次新城市長

3月24日（水）、伊良湖と三重県鳥羽市を結ぶ鳥羽伊良湖航路においてフェリーを運航する民間事業者が、経営不振のため今年9月末をもって事業から撤退すると発表しました。同航路は昭和39年に運行が開始され、現在は国道42号の「海の道」として、観光や水産物輸送、地域間交流などに重要な役割を果たしています。廃止となれば、地域産業への影響

は非常に大きいことから、航路存続に向け、関係者で一致協力する方針を打ち出しました。3月24日（水）には、市内の関係者による「田原市伊勢湾フェリー対策会議」を発足させ、県への支援要望を行いました。また、4月8日（木）には、鈴木克幸田原市長を発起人として「東三河地域鳥羽伊良湖航路存続対策協議会」を立ち上げました。会は、東三河8市町村の首長や議長、観光・商工関係者ら24名で構成しています。今後は、東三河地域が強く結束し、県や鳥羽市を中心とした協議会とも連携し、広域的な地域課題として活動を行っていきます。

▼商工観光課

☎ 23局3516

なお、取り組みの経過については、広報紙などで改めてお知らせします。

3

地域の発展を目指し 愛知大学と連携へ

Cooperation



▲調印式の様子

左から平松政策推進部長、林副市長、鈴木市長、佐藤学長、功刀副学長、名和副学長

田原市と愛知大学は、「産業振興」「人材の育成」「地域のまちづくりの推進」などの分野において、相互に連携・協力し、地域社会の発展に寄与することを目的に、包括的な連携協定を結びました。

3月26日（金）には、市役所において協定書の調印式を行い、愛知大学の佐藤元彦学長と鈴木田原市長が地域発展への貢献を誓い、固く握手を交わしました。

今後は地域連絡協議会を設置し、東三河の知の拠点である愛知大学と、さまざまな分野で連携・協力し、田原市の政策課題の解決に取り組みます。

▼政策推進課

☎ 23局3507